

《医学部》保健学科看護学専攻

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名		ディプロマポリシー	【1.知識・理解】		【2.汎用的技能】		【3.態度・志向性】		【4.総合的な学習態度と創造的思考力】		科目の教育目標
			①幅広い教養と専門分野に関する学問的知識を修得している。	②人間性・科学性及び国際性を身に付け、医療の担い手としての基本的能力を有する。	③患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。	④各専門分野で指導の立場に立ち、高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。	⑤基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統的かつ実践的な学習経験を基盤として、保健・医療・福祉分野の多様なニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。				
学科共通科目	人間	人間関係論	○		◎		○			社会生活において観察される対人コミュニケーションのうち、1)対人コミュニケーションにおける自己、2)他者への働きかけ、3)対人関係の展開、に関する社会心理学的な基本的知識を理解する。	
		生化学I	○							生化学は生物を構成する物質の化学であり、生命・病気の理解に必須の学問である。本講義では、生物の基本となる生体高分子(核酸、タンパク質(酵素)、脂質・脂質)やその構成単位(ヌクレオチド、アミノ酸、単糖、脂肪酸)などの基本構造や性質について理解させる。また、細胞内の遺伝情報の流れ(複製、転写、翻訳)について理解させる。	
		カウンセリング	○	○		○		◎		カウンセリング(臨床心理学)の理論と実践の基礎を学習することを目標とする。	
		解剖生理学Ⅰ	○		◎					細胞の構造と機能、消化器・呼吸器の働きを理解する。	
		解剖生理学Ⅱ	○		◎					循環器、腎臓の構造と機能と血液、および体液の構成成分とその機能を理解する。	
		解剖生理学Ⅲ	○		◎					骨、筋肉ならびに内分泌器官の構造と機能を理解する。	
	環境	衛生学	○								人の健康と環境の関わりを学び、環境保健学の理解を深める。また、衛生学・公衆衛生学の基礎を広く教授する。
		保健学概論	○								疾病予防や健康増進から先進医療にわたる幅広い視野と教養を身につけ、人の健康に関わるさまざまな要因に高い関心をもち、理解するための取り組みができる。
		医療経済論	○			○		○			医療の特長性を理解した上で、病院組織ならびに地域医療システムについての理解を深める。
		社会福祉概論	○			○					社会福祉の基本理念を歴史的な歩みや現状を通し、1人の生活者として福祉を深く理解していくことを目的とする。
	医療	ボランティア活動		○		○			◎		ボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を学習した上で、学生の主体的な計画の下にボランティア活動を体験する。ボランティア活動はもうひとつの慣習を習得し、コミュニケーションであることを学ぶ。ボランティア活動による地域連携を図る。
		放射線衛生学	○				○				自然および人工放射線による被曝と被曝軽減の必要性、対策について理解する。医療従事者として必要な放射線防護の考え方を理解する。
		救急医療論	○	○							救急医療の基礎的知識と専門的な知識および対処法について理解する。
		介護実習					○		○		医療福祉施設における職員の活動状況を見学することや、対象者に接することによって、医療福祉施設での役割を学び、対象者の生活の様子を知る。
		チーム医療論					○		○		医療の現場でチームを組む他の専門職の機能、役割を理解する。多職種間でのコミュニケーションの重要性を理解する。チーム医療を行う上で、自らの職種の役割、責任について検討できる。
		教育指導論	○						○		教育指導を実施する基本的知識として、学習理論に基づき、教育指導の目的、意義、形態及び方法について理解する。
	健康	薬理学	○	○							病気の治療・予防を目的とした薬物療法を効果的に、かつ安全に行っていくには、医療に関わるスタッフ全員が薬に対する正しい知識と理解が必要である。本講義では、適正な薬物療法を計画できるようにするために、薬の基本的性質と作用について学ぶ。
		栄養学	○	○							栄養学の基礎を学ぶことを目的とし、生体が外部からエネルギーや物質を取り入れて利用し、正常な生活を営む過程を理解する。
		精神保健	○		○		○				人間の心の健康を成長発達、生活と適応と危機の面からとらえ、現代社会における精神保健の課題を考える。
		免疫学Ⅰ	○								免疫とは、疫(病気を免れる)排除するという意味である。生体の病原菌や非自己のものを認識し、排除する巧妙な仕組みについて学ぶ。しかし、免疫反応がなまに生体にとって有害な反応(アレルギー)、自己免疫疾患を引き起こすことがあり、それらの機序についても学ぶ。
		病理学Ⅰ	○	○							病気の原因とその本態を知る。
		情報処理・統計学	○			◎		○			統計情報の意味を理解し、現実の現象の解析へ適用するための知識を養う。
		情報処理・統計学演習	○	○		◎					医療職として必要な情報リテラシー、基礎的な統計解析の知識の獲得。
		看護学概論	◎	○					○		看護学を初めて学ぶ人にとって、ガイダンスとなる科目であり、学習をとおして看護学に対する興味と関心を高めることをめざす。
	専門科目	専門基礎	疾病論Ⅰ	◎	○						精神障害を有する患者の看護に必要な精神医学的知識の修得を目指す。
			疾病論Ⅱ	◎	○						医療を取り巻く環境が大きく変わりつつあるなかで、安心、安全、そして全人的医療、チーム医療の推進が求められる。医療専門職者の教育においてもそれらが重要となっている。とくに臨床医学の日進月歩の歩みなかで高度化・専門化が進んでいる今日、従来にも増して、看護にはより広く、より深い医学的知識が求められている。この授業により、臨床現場において、疾患の基礎的知識や検査・治療の内容や目的の理解を助け、いいては安全な医療の推進、質の向上、そして優れたチーム医療実践に活用する。
			疾病論Ⅲ	◎	○						医療を取り巻く環境が大きく変わりつつあるなかで、安心、安全、そして全人的医療、チーム医療の推進が求められる。医療専門職者の教育においてもそれらが重要となっている。とくに臨床医学の日進月歩の歩みなかで高度化・専門化が進んでいる今日、従来にも増して、看護にはより広く、より深い医学的知識が求められている。この授業により、臨床現場において、疾患の基礎的知識や検査・治療の内容や目的の理解を助け、いいては安全な医療の推進、質の向上、そして優れたチーム医療実践に活用する。
			疾病論Ⅳ	◎	○						出生前・産後・産褥期にみられる主な異常について、その原因と病態を理解する。また、不妊の原因、診断、治療ならびに避妊法についても理解する(実習)。
基礎看護学		看護学概論	◎	○					○		看護学を初めて学ぶ人にとって、ガイダンスとなる科目であり、学習をとおして看護学に対する興味と関心を高めることをめざす。
		看護理論			○				○		看護の見方・考え方の基礎として看護理論全般について学習し、代表的な理論家の理論内容を看護実践へ活用する方法について理解する。1)看護理論を構成する概念について理解する。2)看護理論が出現した社会的背景から、代表的な理論家の理論内容を理解する。3)看護理論を実践へ活用する方法について理解する。4)看護理論を学習することにより、看護の見方・考え方の基礎を習得する。5)理論家の著書や論文・発表から、分析力・批判的思考力・発表能力などを養う。【個別行動目標】1)看護理論を説明するために必要な関連する概念を説明する。2)理論開発の過程について説明する。3)看護理論の歴史的な変遷過程と、各時代の代表的な理論家を挙げて、理論の発展を説明する。4)看護理論を分類し、そこに分類される理論家を列記し、理論の内容の概要を説明する。5)看護理論の特徴を説明する。6)看護理論の理論が出現した社会的背景と理論内容を関連づけて説明する。7)看護理論家の理論を構成するキーワード(概念)および主要概念について発表・討論する。8)看護理論の実践への活用と限界について発表・討論する。9)自らの看護に対する見方・考え方を自分の好む理論家によって説明する。その他、それぞれの行動目標のより詳細については各時間ごとに提示する。
		看護技術Ⅰ	◎	○	○		○		○		日常生活の援助に必要な、基礎的知識や基本的技術・態度を身につける。特に、対象者が過ごす日常生活の理解と、対象者の清潔や食事に対する基本的な援助方法を理解し、個々に応じた援助を実施することができる。
		看護技術Ⅱ	◎	○	○						看護実践の基本となる日常生活の援助技術及び診療の補助技術を身につける。単なるスキルを学ぶのではなく、安全性、安楽性、効率性などの観点から、対象者に応じた援助方法とは何かを考察する。各演習を通して、これまでに修得した看護技術の援助を応用することができる。
		看護学概論	◎	○					○		看護学を初めて学ぶ人にとって、ガイダンスとなる科目であり、学習をとおして看護学に対する興味と関心を高めることをめざす。
		看護理論			○				○		看護の見方・考え方の基礎として看護理論全般について学習し、代表的な理論家の理論内容を看護実践へ活用する方法について理解する。1)看護理論を構成する概念について理解する。2)看護理論が出現した社会的背景から、代表的な理論家の理論内容を理解する。3)看護理論を実践へ活用する方法について理解する。4)看護理論を学習することにより、看護の見方・考え方の基礎を習得する。5)理論家の著書や論文・発表から、分析力・批判的思考力・発表能力などを養う。【個別行動目標】1)看護理論を説明するために必要な関連する概念を説明する。2)理論開発の過程について説明する。3)看護理論の歴史的な変遷過程と、各時代の代表的な理論家を挙げて、理論の発展を説明する。4)看護理論を分類し、そこに分類される理論家を列記し、理論の内容の概要を説明する。5)看護理論の特徴を説明する。6)看護理論の理論が出現した社会的背景と理論内容を関連づけて説明する。7)看護理論家の理論を構成するキーワード(概念)および主要概念について発表・討論する。8)看護理論の実践への活用と限界について発表・討論する。9)自らの看護に対する見方・考え方を自分の好む理論家によって説明する。その他、それぞれの行動目標のより詳細については各時間ごとに提示する。

基礎看護学	看護技術Ⅲ	◎	○	○	○	○	○	○	与業の技術は、単なるスキルではなく創作作用の観察や頓挫防止が重要となる。また、緊急時の対応法により救命率や予後が異なるため、これらの知識や技術は看護者にとって必須である。本授業では、これまでの救急や救急処置の知識と看護者としての知識を統合した上で、与業や救急処置に必要となる援助を理解する。さらに、予業や救急処置の看護技術と医療者としての態度を身につける。
	看護技術Ⅳ	◎	○	○	○	○	○	○	ヒューマンケアの基本的な能力、及び根拠に基づき看護を計画的に実践する能力を身につける。また、基礎看護学実習Ⅱに向けて、臨床実習に最低限必要な知識・技術・態度を身につけることができる。
	ヘルスアセスメント	◎	○	○	○	○	○	○	今日のヘルスケア領域において看護者に求められる役割も大きく変化。高齢、難診、難治、難治的なメンタルヘルスケア技術は、対象者の身体・生理的問題を理解するだけでなく、患者の心理的・社会的側面からの情報も重要である。また、看護ケアには心理・社会的側面の情報も重要である。本授業では、専門的関係を築くための基本的なコミュニケーション技術と、メンタルヘルスケア技術を用いて、対象者の健康問題をアセスメントする能力を養うことを目的とする。
	基礎看護学実習Ⅰ	○	○	○	○	◎	◎	◎	病院で見学実習を行うことにより、患者の療養生活を知り、患者の理解を深める。また、病院の構造・体制や看護体制・看護の役割の実践を学習する。さらに、見学実習と医療の専門職を目指す他科学学生との合同カンファレンスを通してチーム医療のより良いあり方について討議し、理解を深める。
	基礎看護学実習Ⅱ	○	○	○	○	◎	◎	◎	看護援助の基礎となる「感じ、考えること」「対象者を大切にすること」をわらわらしています。1.受け持ち患者の全体像を理解する。2.看護援助の観点から受け持ち患者の基本的ニーズを把握し、満たすための日々の援助を実施する。3.援助の過程から看護援助活動について主体的・協力的な力を生かすよう努める。4.受け持ち患者との間で、相互的な尊重・信頼を基礎とする援助の人間関係を築くように努力する。
	高齢者ふれあい実習	○	○	○	○	◎	◎	◎	高齢者に接することによって、高齢者に生じている日常生活援助のニーズを知り、高齢者の生活を理解する。また、高齢者に対する接し方や、コミュニケーションの取り方を身につける。
	リスクマネジメント	○	○	○	○	◎	◎	◎	1)看護業務と医療事故の関連から看護師としての法的責任を理解する。
	看護栄養管理論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	健康の保持・増進には、栄養・運動・休養の適正化が必要である。とくに栄養は生活習慣病の発症に関連しているだけでなく、疾病の回復や悪化・再発の防止にも関与する。授業では、看護において必要な栄養管理について学習する。
	成人看護学概論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	本科目は成人看護学の導入となる科目である。ライフサイクルのなかで最も長い成人期にある人々を人的・社会的存在として理解すると共に、看護の基本姿勢と主要概念、アセスメントの枠組みを学習する。
	成人看護学実習Ⅰ	○	○	○	○	◎	◎	◎	成人看護学実習Ⅰは、以下の2つの目的で実施する。成人看護学実習Ⅰ-①(成人看護学)成人看護学実習Ⅰ-②への導入を目的とし、成人期に特有な健康問題と対応するアセスメント方法の知識・技能の展開方法を習得する。成人看護学実習Ⅰ-②の本実習では、患者に接する患者を包括的に理解することに努め、合併症を予防し健康問題解決のための援助方法を学習する。特に施設下にある患者の生活活動をサポートし、生活活動支援を必要とする援助活動について重点的に学ぶ。また、実習体験を通して、批判的・創造的思考を深めると共に、自己の看護観・倫理観・職業観を醸成させる。
成人看護学実習Ⅱ	○	○	○	○	◎	◎	◎	本実習では、健康障害のために入院治療中である生活の再構築あるいは再調整の必要な患者とその家族の持つ健康問題を解決することを通して、科学的かつ論理的な問題解決能力を養う。さらに、実習体験を通して、批判的・創造的思考を深めると共に、自己の看護観・倫理観・職業観を醸成させることを目的とする。	
成人援助論Ⅰ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	1.生活の再調整・再構築が必要な成人患者の看護ケアの特徴を理解する。2.生活習慣病が原因とした生活の再調整や再構築が必要な成人期患者の基本的看護活動について理解する。3.手術やリハビリが必要な状況下が必要な成人患者の基本的看護活動について理解する。4.リハビリテーションが必要な成人患者の基本的看護活動について理解する。	
成人援助論Ⅱ	○	○	○	○	◎	◎	◎	成人援助論Ⅱでは、長期に病む人や、手術や緊急入院に伴う急性・慢性疾患に悩まされ、利用している援助技術が学内演習で学ぶのと異なり、病気を抱えて治療と療養を続けなければならない人の看護問題を解決する方法について学内での演習をおこなう。	
リハビリテーション看護論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	リハビリテーションが必要な対象者とその家族の理解を深めるために、リハビリテーション看護に必要な基礎知識を習得する。また、おもに高次脳機能障害やその薬用症候群予防のための看護方法を学び、成人や高齢者への薬用症候群予防方法を体系的に学ぶ。	
がん看護論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	がんに対する治療は年々複雑かつ高度になっている。このようながん患者が主体的に治療に参加し、その人らしい生活を送ることができるよう支援するために必要ながん治療に関する基本的な知識、がん患者の主要な健康問題と援助方法について学習する。また、長い療養生活のなかでがん患者が抱える心身の苦悩や苦悶についての基本的なアプローチ方法について学ぶ。	
高齢者看護学概論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	高齢者の看護を初めて学ぶ人にとって、ガイダンスとなる科目である。高齢者を取り巻く環境、高齢者の理解に基づいた看護の基礎を理解し、高齢者看護学に対する興味や関心を高めることをめざす。	
高齢者援助論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	加齢による心身の機能低下に加えて、様々な疾患を抱える高齢者を包括的に理解し、高齢者のQOLの向上を目指した援助のあり方と具体的な援助技術について学習する。また、様々な高齢者の療養の場とその特徴を理解し、具体的な援助方法を学習する。さらに、高齢者に対する看護過程の展開方法を学ぶ。	
高齢者看護学実習	○	○	○	○	◎	◎	◎	高齢者は長い人生経験で蓄積された成熟の要素と老化による衰退の要素を併せ持つ存在として捉えることができる。このような観点から、高齢者のQOL向上のための援助活動の展開方法を活用して衰退の要素を補完するケアが必要である。本実習ではオームのセルフケア理論を基盤として治療過程にある高齢者に対する援助方法を学ぶ。また、実習を通して自己の看護観や倫理観、職業観を養う。	
母性看護学概論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	生と生殖にかかわる健康と権利(reproductive health/right)の視点から、母性・女性・親と子供が、個々・相互・集団からその特徴を理解し、母性の一生を通して全体像を把握することで、母性看護を関連するための基礎的知識を習得する。	
母性援助論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ライフサイクルに応じた女性および、マタニティサイクルにある母子の健康状態をアセスメントし、母、子、家族に対して必要な看護援助技術を行うことで、適切な母性看護援助過程を理解することができる。	
小児看護学概論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	小児看護の基本となる理念や小児を取り巻く家庭・社会環境および対象の特性について理解する。	
小児援助論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	小児の発達段階に応じた日常生活の援助ならびに健康問題をもつ小児の看護援助の方法を理解する。	
小児看護学実習	○	○	○	○	◎	◎	◎	小児とその家族を対象に、成長発達段階および健康レベルに応じた適切な看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を修得する。	
母性看護学実習	○	○	○	○	◎	◎	◎	女性のライフステージに即してまじる健康問題について、生殖に関する健康と権利(reproductive health/right)の視点から援助ができる基礎能力を養う。また、特にマタニティサイクルにある母子と家族への適切な援助ができるための基本的な実践能力を養う。	
母児関係論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	母(父)と子、および親と子の関係について、どのような考え方があのかを視する理論として理解し、援助活動におけるその関係の意味を深める。また、母(父)児の関係を発達させるための母乳育児の重要性や子育て支援について学ぶ。	
子どものメンタルヘルス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	子どもと親との関係が増加している。子どもと親との関係は、対人関係の障害に起因するところの発達の変容と捉えられる。そこで、主に不登校、子どもの虐待、発達障害、心身症、摂食障害、気分障害をとりあげ、症状の特徴、要因を理解し、子どもを発達支援の視点、すなわち子どもの発達のための基本的な要素である信頼関係を確立し、子どもに自信をとりもたせように対応することの大切さを学習する。	
精神看護学概論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	精神の発達と健康を支える看護活動の特徴を理解する。	
精神看護援助論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	精神の健康の維持および促進、また精神疾患・障害からの回復を支援するために必要な基礎的知識と方法を理解すると共に、看護職の役割と今後の課題を検討する。	
精神看護学実習	○	○	○	○	◎	◎	◎	精神障がい者がその人らしい生活を送るために、精神の健康の維持および精神疾患・障害からの回復に必要な支援に関する基礎的知識を養う。	
在宅看護学概論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	在宅看護の特徴を知り、看護者を取り巻く問題を抽出し、求められている在宅看護の役割と今後の課題を考察する。	
在宅看護援助論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	在宅看護の実践に必要な知識、技術についてその成り立ちの基礎となる概念と手法について理解する。	
地域・精神看護学									

専門科目

母性・小児看護学

地域・精神看護学

専門科目	地域・精神看護学	在宅看護学実習	○	○	○	○	◎	在宅で療養している対象者とその家族に対して、生活を尊重しながら生活の質(QOL)向上の視点から看護援助が実践できる基礎的能力を身につける。
		地域看護学概論	◎	◎	○	○	○	健康問題の変遷や健康課題を概観し、健康管理を支援するための地域保健活動を理解する。
		公衆衛生看護学概論	◎	◎	○	○	○	公衆衛生看護活動の理念(原理・原則)を理解する。地域住民を捉える視点および予防的視点から健康水準の向上をめざす保健師の役割を理解する。
		公衆衛生看護援助論	◎	◎	○	○	○	1. 地域で生活する人々の健康問題の解決や、地域の健康課題の組織的な解決に必要な公衆衛生看護活動技術の基本を学習する。 2. 対象別看護活動として成人・高齢者・母子および感染症を取り上げ各々の保健師活動の実践を学習する。
		公衆衛生看護学実習	○	○	○	○	◎	地域の多様な場において生活する人々の健康の維持増進を支援する保健師としての基礎的能力を養うことを目的とする。
		ケアマネージメント	◎	◎	○	○	○	さまざまな健康レベルの対象に、公衆衛生看護と在宅看護を実践していくために必要なケアマネジメント、およびケアマネジメントの基盤となる地域ケアシステムについて理解する。
		健康教育方法論	○	○	○	○	◎	健康教育をヘルスプロモーションとの関連で理解し、健康教育の企画・指導案の作成や準備・実施・評価までの一連の健康教育を展開する過程における基本技術を習得する。
		学校保健論	◎	○	○	○	○	学校における保健管理、保健教育、組織、保健室の運営、身体とこころの健康問題をとりあげ、学校保健の重要性について理解する。学習・生徒の身体の健康維持・増進における学校の役割については、母子保健と関連させ理解する。こころの問題については、子どものメンタルヘルスクアでとりあげた問題の中でも発達障害児のこころの問題を重点的にとりあげる。また、母子保健と学校保健の連携のあり方について学習する。
		産業保健・看護論	◎	◎	○	○	○	産業の場における人々の心身の健康課題を取り上げ、産業保健・看護活動の基礎的な知識および技術を習得する。
		保健医療福祉行政論	◎	◎	○	○	○	少子高齢化社会や市町村合併等社会情勢の変化に伴い行政の機能と役割も大きく方向転換してきており、時代の流れと人々の意識の変化に対応できる公衆衛生看護職が求められている。当科目では、公衆衛生行政の視点から、地域の特性や健康課題に対応できる保健師の機能と役割について考察する。
		健康管理論	○	○	○	○	◎	地域・公衆衛生看護活動の基礎的な理論および技術を習得するために、あらゆる健康問題および健康レベルにある地域住民の健康管理について理解する。
		疫学	◎	○	○	○	○	人間集団(社会)の健康維持・増進に必要な統計情報や疫学的解析手法および予防政策について理解し、応用できるようにする。
		家族看護学	◎	○	◎	○	○	ケアの対象となる家族について理解する。
	ケアシステム論	◎	○	○	○	○	看護の対象となる人々のためのケアシステムについて理解する。	
	総合看護学	原書講読Ⅰ	○	○	○	○	○	看護学に重要な原書を講読し、これまでの学習、看護や自分の体験をふまえながら原書の内容を理解する。
		原書講読Ⅱ	○	○	○	○	○	エビデンスに基づく看護の探求や、看護の新たな知識開発のために、英文や外国語で書かれた看護に関する論文や著書を選択して読解する能力を習得する。
		看護管理学	○	○	○	○	○	医療・医学の発展過程を踏まえ、患者に質の高いケアが提供できるための様々な看護管理の方法について理解する。
		看護教育学	◎	○	○	○	◎	看護教育の歴史、教育課程、教育方法、教育評価など、看護教育の基本的知識を習得する。
		看護研究Ⅰ	◎	○	○	○	○	1) 研究の基礎的知識や方法について理解する。 2) 看護研究の過程について理解する。 3) 研究の用に即した研究デザインのあり方について理解する。 4) 各領域における現存問題となっていることや、社会的問題から、自ら問題意識を研究テーマへ発展させて探求する能力を修得する。
		看護研究Ⅱ	◎	◎	◎	◎	◎	1) 研究の基礎的知識や方法論について理解する。2) 各領域における現在問題となっていることや、社会的な問題から、自ら問題意識を研究テーマへ発展させて探求する能力を修得する。
看護倫理		○	○	○	○	◎	医療のめざましい進歩によって多大な恩恵がもたらされている一方、看護倫理に関する問題が増加している。日々の医療行為には、いつも倫理的問題が潜んでいると捉えることも必要ではない。倫理的問題は、患者を傷つける医療人の日々のなげない行動や言葉から、高度な医療に伴う問題までさまざまである。種々の看護倫理に関する問題をとりあげ、医療行為を行うにあたって、倫理(正義であること)、マター(責任と思いやりをもつて患者に対応すること)が、看護者にとって最も基本的な態度であることを学習する。	
国際看護活動論		○	◎	○	○	○	This course is an introduction to understand of the concept of International Nursing and health, the global perspectives on health, and the global cooperation and collaboration of nursing and other health care providers.	
災害看護		○	◎	○	○	○	災害の種類と危機的な状況に置ける看護について理解する。	
看護導入実習		◎	○	○	○	◎	1. 実習を行う医療機関の特徴、医療・看護システム、実習病棟において治療頻度の高い疾患、その治療法等について事前に学習することで、スムーズな実習への導入をはかる。 2. 職業生活を志す学生への安全で安楽な援助を行うための援助技術の再確認を行う。	
看護統合実習	◎	◎	◎	◎	◎	保健医療チームの一員として、看護を統合的かつ継続的に展開し、看護の実践能力を高める。		
養護教諭免許関係科目	養護概説Ⅰ	◎	◎	○	○	○	養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基礎について学ぶ。養護教諭の職務と果たすべき役割、子どもを取り巻く健康問題とその解決の支援について考える。さらに養護概説論としての基礎的、応用的知識・技術を学び科学的な理論と実践の中で研究的な貢献・力量を身につける。	
	養護概説Ⅱ	◎	◎	○	○	○	養護概説Ⅰで学んだ内容をもとに健康問題解決支援のための具体的な養護活動の方法について学ぶ。また、学校教育において養護教諭が行うべき養護活動および、養護活動を機軸とした幅広い支援活動を実践できる能力を養う。	
	健康相談活動	◎	◎	○	○	○	現代の急変する社会背景の中で、いじめや不登校、薬物乱用、性的逸脱行動、生活習慣病、新たな感染症の出現等、児童・生徒の健康の維持・増進を阻害する深刻な要因が増加している。養護教諭は児童・生徒の心身の健康問題にいち早く気づくことのできる立場にある。「健康相談活動」は、養護教諭の職務の特性や保健師の職能を生かした健康相談活動の基礎・基本を学び、理解することを目的とする。	
	養護実習	○	○	○	◎	◎	学内で学習した内容を実践し、養護教諭としての資質、知識、技能を習得する。	
	養護実習事前事後指導	○	○	○	○	◎	事前指導は養護実習への円滑な導入と、より高い実習の成果を得るための準備を整えることを目的とする。また事後指導は実習で体験したことを整理し、他の学生の経験と共有することにより、養護教諭に必要な資質や知識、技能を大成することを目的とする。	
	教職実践演習	○	○	○	○	◎	1. 養護教諭として教育に対する使命感、責任感、倫理感を養う 2. 社会、組織の一員としての社会性、コミュニケーション能力を養う 3. 児童生徒理解及び保健室経営能力を養う 4. 養護教諭として健康教育に関する指導力を高める	